

只見町ブナセンターだより

企画展

「只見町の巨樹・巨木 展」開催中！

<期 間>

2013年1月5日（土）～4月15日（月）

今回1月5日(土)から開催している「只見町の巨樹・巨木」展は、只見町の身近な、そして知られざる巨樹・巨木を写真入りの解説パネルで紹介します。

只見町で確認されている、巨樹・巨木の紹介に加え、巨樹・巨木の測定の仕方、測定に使用する道具の展示や、巨樹・巨木の位置図も紹介しております。



【次回企画展及びブナセンター講座】

■企画展

あがりこの生態 - 只見の「あがりこ林」と人々の暮らし
4月下旬～6月にかけて開催予定。

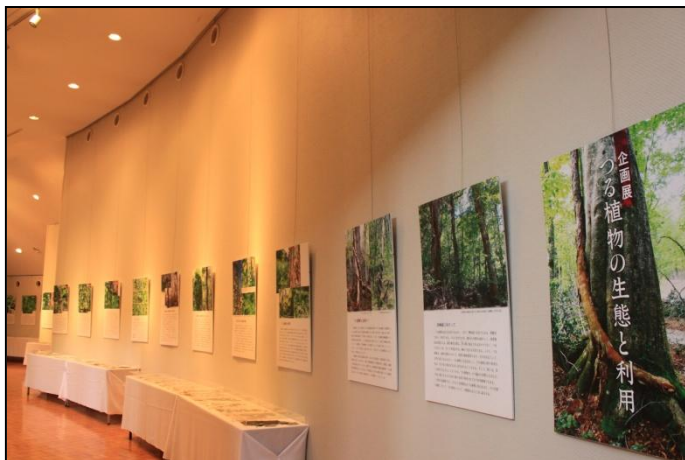
■ブナセンター講座

人と森林の関わり - 「あがりこ林」の生態と歴史
5月中旬に予定。

【活動報告】

■企画展

〈ツル植物の生態と利用〉



2012年10月1日から12月16日の期間で、企画展「ツル植物の生態と利用」を開催しました。

樹木に取り付き生育する“ツル植物の生態”を写真付きの解説パネルで紹介し、只見町で見られるツル植物の標本もパネルに合わせて展示を行いました。

“ツル植物の利用”では、ツル細工で良く利用されるツル植物が、どんな特性を持っているのか？その利用方法についてパネルで解説し、アケビやマタタビ、ヤマブドウ等のツルで編まれたザルや手提げカゴを展示しました。ツル細工以外の利用法とし

て、マタタビやサルナシを焼酎に漬けたものやクズの根からとったクズ粉なども合わせて展示しました。

来館された方は、植物標本やツルの特製、利用法など解説を熱心にご覧になる姿が見受けられました。

■写真教室

〈只見の自然を撮る！〉10月8日（月）



写真家の猪又かじ子さんをお招きして、写真教室「只見の自然を撮る」を開催しました。県内外から19名の参加があり、蒲生地区真奈川のブナのあがりこ近辺で撮影を行いました。

初めに、ブナセンター指導員から、只見町で見られる特異な地形「アバランチシュート（雪食地形）」や「あがりこの成り立ち」について説明があり、その後猪又さんから撮影

のポイントをアドバイスしてもらいながら思い思いに撮影を楽しんでいただきました。まだ紅葉は始まっていませんでしたが、撮影中に“ニホンザルの群れに遭遇”したり“キノコを見つけたり”と楽しい写真教室となりました。

撮影後は、ただみ・ブナと川のミュージアムに戻りお昼休憩を挟んだ後、セミナー室で、参加者の方が撮影した写真を、猪又さんに講評していただきました。

猪又さんは、撮影時にもアドバイスされた「光・角度・構図」の三点に重点を置いて説明され、参加者の方々からは「面白かった」「勉強になった」「別の場所でも企画してほしい」等の感想をいただきました。

■自然観察会

〈みんなでキノコを調べよう!〉 10月28日(日)



身近なキノコを観察しようということで10月に、キノコの観察会を行いました。町内で熊の出没が相次いでいたことから、プナセンター近くの青少年旅行村でキノコを採取し調べることにしました。

朝から小雨が降り続き肌寒い日となりましたが、プナセンター友の会の皆さんや前日から旅行村に宿泊されていた方々の参加もあり、総勢17名でキノコの観察会となりました。

10分ほどで旅行村に到着すると、思い思いの場所でキノコを探し、30分ほどで様々な種類のキノコを採取することができました。雨が降っていたこともあり、キノコの特定は、ただみ・プナと川のミュージアム・休憩室で行いました。地元のキノコ取り名人を中心に、図鑑を見ながら皆で手分けして調べると、特定できないキノコもありましたが、名前のわかったものだけで、20種類のキノコを見つけることができました。

参加者からは、「図鑑だけでは、わからないこともあるので、参加できてよかった」という声が聞かれました。

■プナセンター講座

〈ツル植物の生態〉 11月11日(日)



鈴木和次郎プナセンター館長を講師に、プナセンター講座「ツル植物の生態」を開催いたしました。

鈴木和次郎プナセンター館長は、初めに「ツル植物とは、自らの体を支える支持組織を十分に発達させず、支柱や樹木に取り付き生長する植物の総称」と説明されました。

ツル植物といってもその種類は様々で、巻きつき型、巻きひげ型、吸着型、寄りかかり型、複合型などがあり、絞め殺し植物といわれる、支柱となる樹木を文字通り絞め殺してしまうツル植物もあるそうです。それぞれの種類によって、どのような成長をするのか説明がありました。

次に、ツル植物は巻きつかれた支持木にどんな影響を及ぼすのかされました。

主な被害として、「樹幹にくいこみ締め付ける“くいこみ被害”や、樹冠部を覆って光合成を妨げる“覆い被害”などがあり、森林の外側を覆うようにして茂るツル植物は、直射日光を遮るカーテンのような“中の環境を一定に保つ”という役割を果たしている」と、支持木に与える被害だけでなくツル植物が森林の中において、どんな役割を果たしているか説明されました。

最後の質疑応答では、ツル切りについての質問に対し、「すでに絡まっているツルを切る際に、刃物で支持木を傷つけることが無いように、支持木からツルを取り外す事が重要」だと解説されました。参加者からは、「ツル植物の生態を詳細にわかりやすく学ぶことができて良かった」という声が聞かれました。

■ブナセンター講座

〈ツル細工の種類と伝統〉 12月1日（土）



企画展に合わせて、ブナセンター講座「ツル細工の種類と伝統」を開催いたしました。講師には、日本女子大学櫻楓家庭工芸研究所の谷川栄子先生をお招きし、“ツル細工の歴史”や“色々なツル植物の材料としての特徴”をお話していただきました。

谷川先生は、日本各地から出土した様々なカゴについて、「縄文時代の遺跡から、テイカズラなどのツル植物で編まれた美しい籠が出土しており、これらのカゴは、現代とほとんど同じ技術で編まれている。これは、縄

文時代からカゴ編みの伝統が続いているということをお話している」と説明されました。

次に、カゴを編むのに使われるツル植物（クズ、アケビ等）について、“ツルとそれを材料に編んだカゴの写真”を見ながら、それぞれの特徴を説明していただきました。ツルの採取に関しては、「材料とするツルは、その土地によって採取する時期が異なる為、地元のカゴを編まれるおじいちゃんやおばあちゃんに“どの時期に採取するのがいいか”を聞いておくことが大事」だそうです。

最後に、“アメリカ全土から作品が集まるカゴの展示会”があるそうで、海外のツル細工の紹介としてお話がありました。ツルだけでなく、材料に樹皮や木を割いて作るカゴの紹介があり、「世界各地で様々な材料を使ったカゴ編み細工が行われている」ということがわかりました。

質疑応答では、「クワの樹皮の利用方法やガマの葉の利用方法」、「アケビのツルの干し方」など、ツル細工をされている方からの質問が多数ありました。今回の講演会は、カゴ編みの研究者で著書も多数ある谷川先生のお話が聞けるということで、県外からもたくさんの方が講座を聞きに参加され、地元の方からも「とても参考になった」という声がきかれました。

■カゴ編み教室 12月2日（日）



「ただみ・ブナと川のミュージアム」休憩室で、“またたび屋”の協力のもと、カゴ編み教室を開催いたしました。当日は、南会津町や関東の方からも参加があり、十九名の方がカゴ編みを体験されました。

参加者には、籐（トウ）をベースに様々なツル（アケビやブドウ）樹皮（クルマ皮等）を使って、円形の小物入れを作る体験と、只見町で昔から編まれてきた、マタタビザルを材料から作る体験の好きな方を選んでいただきました。

マタタビ編みの講師には、渡部安喜さんをお迎えし、マタタビ割き方から、編み方までを実演していただきました。

二時間という短い時間でしたが、参加者の皆さんは、それぞれ講師の方々に質問したり、アドバイスを受けながら、楽しく作業されました。カゴ編み班は“ツルや樹皮の質感が面白い素敵な小物入れを制作”し、マタタビ班は“マタタビの枝を割いて材料を作り、あじろ編みの編み始める所”までいこと体験することが出来ました。参加者からは「とても楽しかったのでまたこういう機会があれば参加したい」という声が聞かれ、充実した講座となりました。



只見町では、農作業のできない冬の手仕事として、マタタビやアケビのツルを材料にカゴやザル等の日常用品が編まれてきました。しかし、技術を持っている方々の高齢化が進み、段々名人と言われるような、美しいカゴを編む人が少なくなってきています。今回のような講座を通じて、様々な年代の人が体験し、昔からある技術に興味をもっていただければいいと思います。

■企画展

〈特別展 自然首都・只見展〉-かながわ県民センター-



2012年12月24日から27日の期間に、神奈川県横浜市の県民センターにおいて「自然首都・只見」展を行いました。

8月に“コラッセふくしま”で行った「自然首都・只見」展と同じく、「只見の自然と暮らし」を県外の方にも知ってもらうことを目的に行いました。

只見町の四季の自然とそこに生育する動植物、豊かな自然から私たちが受け取り活用してきた、生物資源の利用法と人々の暮らしなどを写真付きの解説パネルで紹介しました。あわせて“只見町観光まちづくり協会”

と“またたび屋”による物産販売も行われました。

24日と25日には、講演会「只見の自然と暮らし」が行われ、ブナセンター主任指導員の渡部和子から、只見町の自然環境とそこに暮らす人々の生活が紹介されました。また、ただみ・ブナと川のミュージアム館長の鈴木和次郎より、只見町ブナセンターの役割や、只見町が合登録を目指す、ユネスコ・エコパークの取り組みについての説明もありました。

講演会には、ブナセンター友の会の会員をはじめ、神奈川県内にお住まいの只見町出身の方々や、ポスターチラシを見て来られた方など、多くの方にご来場いただきました。

企画展をご覧になった方から、「改めて只見の自然の素晴らしさを知る事ができた」、「花の咲く時期や新緑の時期に是非行ってみたい」、「こんなに自然が豊かに残っているのは素晴らしい」などの声が寄せられました。

4日間の開催となりましたが、友の会会員や丹沢ブナ党の方々のご協力もあり、延べ約300人の方々にご来場いただきました。

■ブナセンター講座

〈只見で出会った巨木たち〉 2013年1月19日（土）



弥彦山脈植物友の会会長の刈屋寿氏を講師に迎え、ブナセンター講座「只見で出会った巨木たち」を開催いたしました。

講座では、“刈屋さんが只見町の植物を調査したこと”“巨樹・巨木に興味を持ち調べるようになったきっかけ”そして“只見の巨樹・巨木の紹介”をお話していただきました。

刈屋さんは、「只見町史」を刊行するにあたり、平成6年～12年までの6年間、只見町の植物を調査されてきました。只見町の

調査を始めた当初、刈屋さんは「只見町では800種ほどの植物しか見つからないだろう」と考えていたそうです。その理由として、海や標高の高い山が無い、水田が整備されている、池や沼が少ない、という点があげられました。

しかし、調査を進めて行くと、800種を超える植物が見つかり、最終的に1075種が存在していることがわかりました。刈屋さんは、「ただし、これは河川の流域や、比較的足を踏み入れやすい地域を調査した結果であり、崖などの容易に足を踏み入れることができない場所には、まだ確認されていない植物が見つかる可能性がある」と説明されました。

刈屋さんが、巨樹・巨木を調べるきっかけとなったのは、金沢大学の里見信生先生と「巨樹・巨木の調査の必要性」についてお話をされたことだそうです。その後、巨樹・巨木に興味を持ち、只見町の植物調査に合わせて、巨樹・巨木の調査もされ「只見町の巨樹・巨木番付表」の制作にも携わられました。巨樹・巨木の紹介では、昨年発行された“只見町のフィールドガイドⅡ”を参考に、樹種ごとの特性や最大でどのくらい大きくなるかなどを説明していただきました。刈屋さんが調査を行った後に見つかった巨樹・巨木もあり「今後、新しい巨樹・巨木が、もっと見つかる可能性がある。もし大きな木を見かけたら、是非只見町ブナセンターへ情報提供をしていただきたい」と呼びかけられました。

参加された方から「身近に存在する巨樹・巨木のお話が聞けて良かった、楽しかった」などの感想が聞かれました。

〈冬の木の芽観察会〉 2月10日（日）



雪まつり2日目に、冬の木の芽観察会をブナセンターの隣にある、只見川公園で行いました。朝から雪が降っていましたが、お昼頃には少し降り方が落ち着いてきたので予定通り開催となりました。公園内の積雪は、前日から降り積もった雪で2mほどあり、前もってつけておいたコースも埋まってしまいました。降り積もったばかりの雪の上を、長靴を履いただけで歩こうとしても足が埋まってしまい思うように動けません。



そこで皆さんに履いていただいたのが、“カンジキ”です！これを履くと、雪に沈まずに歩くことができます。参加者のほとんどが“カンジキ”を履くのが初めてだったので、玄関先で履き方の講習を受けながら、自分で装着していただきました。カンジキを履いた後は、只見川公園内で、ブナやコナラ等の冬芽を観察しました。コナラの枝先には、ドングリの帽子だけが残っていたり、ヤナギの枝に虫こぶができていたりと色々な発見がありました。

せっかく雪が降っているんだから、木の芽の観察だけでなく“雪の結晶”も観察しよう！ということで、黒いフェルトを1枚ずつ配りその上に雪をのせて結晶の観察を行いました。

参加者からは、ほとんどの方が初めてカンジキを履いたということもあり「カンジキを履いて雪の上を歩くのが楽しかった」という声が多く聞かれました。また、「葉が生い茂っている時に比べて、木だけを見てもわからないことが、冬芽を見ると色々わかる事があると勉強になった」という方もいらっしゃいました。

■トチ餅づくり 1月28日～2月13日



1月28日のトチの皮むきから、アク抜き、アクを洗い流す作業を行い、2月13日にトチ餅作りと、計4回の作業となりました。もちつき当日は、町内から10名の参加がありました。

最初に、木灰と重曹で、どの程度灰汁の抜け方が違うのか、合わせて5種類の方法でアク抜き処理をしたトチの実を、それぞれ試食してみました。アクを洗い流した直後は、とても渋かった木灰と苦いけど食べられないことはない重曹で、水にさらした後どの程度違いがあるのか、皆で試食してみました。すると木灰で処理をした方が、アクが

抜けていました。重曹は苦みが水にさらす前と同じくらい残っています。(木灰は震災以前の物を使用しております)

皆で、アクの残り具合を確認した後は、いよいよトチ餅作りに入ります！

只見町で昔から行われているトチ餅の作り方は、アク抜きの際に実を煮溶かして作る“トチッコ”と呼ばれるトチの粉を餅につき入れるやり方ですが、今回は都合によりその手法をとれなかったため、トチの実を蒸かして潰した後、つきたての餅に混ぜるという方法でトチ餅を作りました。途中、トチの実が思った以上に硬く火が通らない等のハプニングもありましたが、2升のトチ餅が完成しました。



つきあがった餅は、話に聞いていた通り冷めても柔らかく中々硬くなりませんでした。適当な大きさに手早くちぎったあと、きな粉とあんこを絡めて、お昼御飯を兼ねた試食会となりました。参加者からは「美味しい！」という声上がり、持ち寄られたタクアンなどのお漬物と一緒に、皆で美味しくいただきました。試食の際には、只見町で販売されているトチ餅と食べ比べをするなどして、今回作った餅の感想を言い合い、次に作る時にどうしたらいいか等の相談もありました。

只見町でも昔から各家庭で作られてきたトチ餅ですが、手間暇がかかる為だんだんとトチ餅を作る家庭が無くなってきています。今回の体験は、興味があっても「作り方がわからない」「手間暇がかかると言うし、自分だけでは中々手をつけられない」という方たちと共に、実際にトチ餅を作る事ができました。今回の体験を参考にしながら、各ご家庭でトチ餅作りに挑戦していただければと思います。

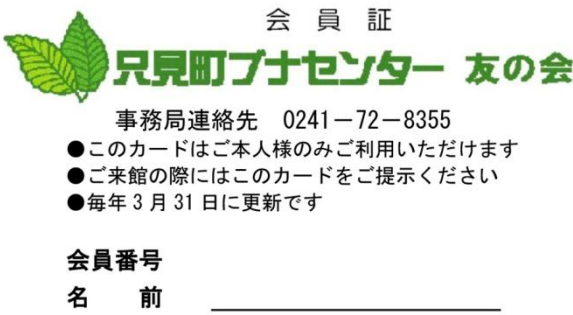




■友の会 会員証 の変更について

ブナセンターロゴの変更に伴い、2013 年度より 友の会 会員証 が新しいデザインへ変更となります。



<表>

<裏>

■2012 年度まで

 <p>会員証 只見町ブナセンター 友の会 事務局連絡先 0241-72-8355 ●このカードはご本人様のみご利用いただけます ●ご来館の際にはこのカードをご提示ください ●毎年3月31日に更新です</p> <p>会員番号 名前 _____</p>			 <table border="1"> <tr> <td>平成 22 年度</td> <td>平成 23 年度</td> <td>平成 24 年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成 25 年度</td> <td>平成 26 年度</td> <td>平成 27 年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度				平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度			
平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度															
																	
平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度															

■2013 年度から

 <p>会員証 No. _____ 氏名 _____ 有効期限：平成25年4月1日～平成26年3月31日</p>		 <p>只見町ブナセンター友の会 事務局連絡先：0241-72-8355 HP：http://www.tadami-buna.jp/index.html mail：info-buna@amail.plala.or.jp ●このカードはご本人様のみご利用頂けます ●ご来館の際に、カードをご提示ください ●更新の手続きに関しては、当館ホームページをご覧になるか、事務局までお問合せください。</p>	
---	--	--	--

今までは、更新の際に更新用のシールをお渡ししていましたが、今回から“1年ごとの更新で、新しい会員証を発行する”ようになりました。

それに伴い、汚れ・折り曲げ防止のラミネート処理が無くなりますのでご了承ください。

〒968-0421

福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地「ただみ・ブナと川のミュージアム」内



開館時間：午前 9 時～午後 5 時（最終受付は午後 4 時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）

入館料：高校生以上 300 円 小中学生 200 円

未就学児無料（20 人以上は団体割引）

■Tel 0241(72)8355 ■web http://www.tadami-buna.jp

■fax 0241(72)8356 ■E-mail info-buna@amail.plala.or.jp